

事務事業名		大船渡市小石浜トンネル整備促進期成同盟会運営事業				☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	01 潤いに満ちた快適な都市環境の創造				事業期間		予算科目				
	施策名	02 良好な生活空間の創造						会計	款	項	目	事業
	基本事業名	01 生活道路の整備										
根拠法令						☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 11 年度～) ☐ 期間限定複数年度 (計画期間) 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入		01 08 01 01 05				
所属	部課名	都市整備部建設課										
	係名	業務係	電話	0192-27-3111	内線			320				
事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)												
「主要地方道大船渡綾里三陸線」は、本市の中心市街地から三陸町綾里地区を経由し、越喜来地区で国道45号に接続する唯一の幹線道路であり、生活道路、産業道路、観光道路として利用されているが、特に綾里地区白浜から小石浜までの区間は路幅が狭いうえ、急カーブ、急勾配が連続した本路線最大の難所となっている。 大船渡市小石浜トンネル整備促進期成同盟会は、小石浜トンネルの整備促進を図るため、関係機関への整備促進要望、関係機関との連絡調整、関係資料及び情報の収集を主に行っており、本事業はその事務局を運営する事業である。 主な業務は、総会の案内・総会資料の作成・要望活動の調整などを行う。事業費は20万円であるが、繰越金等の既存予算内で足りるため、平成15年度以降、市からの負担金は支出していない。 小石浜トンネルの整備については、平成23年度事業化が決定し、事業は道路管理者である岩手県が行うことになるが、現在は用地の測量が行われている。												
全体計画 (※期間限定複数年度のみ)												
総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金									
		都道府県支出金										
		地方債										
		その他										
		一般財源										
	事業費計 (A)							0				
人件費	正規職員従事人数											
	延べ業務時間											
	人件費計 (B)							0				
トータルコスト(A)+(B)								0				

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)		
① 手段 (主な活動)		名称		単位
前年度実績 (前年度に行った主な活動)		ア 総会実施回数		回
総会の開催、大船渡地方振興局長への要望		イ 関係機関への要望回数		回
今年度計画 (今年度に計画している主な活動)		ウ		
総会の開催、沿岸広域振興局長への要望				
② 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		(6) 対象指標 (対象の大きさを表す指標)		
主要地方道大船渡綾里三陸線		名称		単位
主要地方道大船渡綾里三陸線利用者		カ 小石浜トンネル計画延長		m
		キ		
		ク		
③ 意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか)		(7) 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)		
(主要地方道大船渡綾里三陸線)小石浜トンネルが整備される		名称		単位
(利用者)安全に利用してもらう		サ 所要時間 (白浜～小石浜)		分
		シ		
		ス		
④ 結果 (基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)				
安全で快適に移動できる。				

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)
投入量	事業費	単位						
		千円						
事業費	財源内訳	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円						
	事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	0	0
人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
	延べ業務時間	時間	20	20	20	20	20	20
	人件費計 (B)	千円	80	80	80	80	80	80
	トータルコスト(A)+(B)	千円	80	80	80	80	80	80
⑤ 活動指標	ア	回	0	1	1	1	1	1
	イ	回	0	1	2	1	1	1
	ウ							
⑥ 対象指標	カ	m	800	800	800	800	800	800
	キ							
	ク							
⑦ 成果指標	サ	分	15	15	15	15	15	15
	シ							
	ス							

事務事業ID	0657	事務事業名	大船渡市小石浜トンネル整備促進期成同盟会運営事業
--------	------	-------	--------------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 主要地方道大船渡綾里三陸線沿線地域の振興を図るため、小石浜トンネルの整備を促進することを目的に、平成12年2月10日、行政、議会、綾里地域振興推進協議会、甫嶺・上甫嶺・小石浜・砂子浜・白浜地域の各代表を構成員として、小石浜トンネル整備促進期成同盟会が設立され、事業を開始した。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 主要地方道大船渡綾里三陸線の小石浜工区の道路改良について、県では、平成9年度から調査を開始し、平成12年度からトンネルを含めた全体計画の検討に必要な地質調査や予備設計を実施し、平成14年度には小石浜側区間の道路計画説明会と、小石浜～白浜間の測量を行うための事業説明会が開催された。 平成23年度、事業化が決定し、現在、用地の測量調査が行われている。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 大船渡市議会各会派(新政同友会、光政会、日本共産党)や綾里地区議員、小石浜部落会から、小石浜トンネルの早期整備等について要望されている。			

2 評価の部(SEE)＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価			
目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由] 小石浜トンネルの整備がなされれば、交通の利便性がよくなり、快適な都市環境の創造に結びつく。	
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由] 地域の振興を図るため、小石浜トンネル早期実現の要望を行っている期成同盟会の活動は必要なものであり、費用負担を伴う活動をした場合に負担金を支出するのは妥当である。	
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由] 小石浜トンネルが整備されることにより、安全に利用できるので適切である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由] 要望活動等の成果により事業化が決定し、事業に着手した。	
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒ [その内容] 事業に着手しており、今後のあり方について検討する必要がある。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒ [理由] 類似事業がないため、統廃合の余地はない。 ☒ 他に手段がない ⇒ [理由]	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] 総会・要望活動等、必要最小限での対応を行っているので、削減の余地はない。	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] この事業に要する業務時間は年20時間程度であり、現状のまま他の業務をしながら対応する方が効果的である。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っている不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由] 本市の産業・観光振興、他地域との交流促進のために、小石浜トンネル整備の要望活動をしている期成同盟会が費用負担を伴う活動をした場合の負担金の支出であり、妥当である。	

事務事業ID	0657	事務事業名	大船渡市小石浜トンネル整備促進期同盟会運営事業
--------	------	-------	-------------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 県からは、路線の重要性や地域の熱意は理解しているものの、早期の事業化は難しいとの考えが示されており、引き続き強力な要望活動を展開していくことが重要である。					
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																	
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																	
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																	
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																	
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☒ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 事業家が決定し、事業に着手しているため、今後のあり方について検討する。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上維持				低下		×	×
		コスト																	
		削減	維持	増加															
成果	向上維持																		
	低下		×	×															
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし																			

(職 名) ※原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者																			
(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☐ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																			
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由					
① 目的妥当性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																	
② 有効性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																	
③ 効率性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																	
④ 公平性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																	
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容)		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上維持				低下		×	×
		コスト																	
		削減	維持	増加															
成果	向上維持																		
	低下		×	×															

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
